

会 議 記 録 (1)

会議名称	北本市第三次障害者福祉計画策定委員会 第1回委員会
開会及び閉会日時	平成28年6月24日(金)午後10時00分(開会)～午前11時00分(閉会)
開催場所	3-E会議室(庁舎3階)
議長氏名	加藤潤一委員長
出席委員(者)氏名	加藤潤一委員長、木下大生副委員長、岡野貞子委員、岩崎雄一委員、長島幸枝委員、関根秀行委員、甲斐田よし子委員、長岩透委員、長谷川由美子委員、関根孝明委員
欠席委員(者)氏名	横田清委員、平尾良雄委員
説明者の職氏名	福祉部障がい福祉課課長 平井 巖
事務局職員職氏名	福祉部障がい福祉課課長 平井 巖 福祉部障がい福祉課相談支援担当 春山 福祉部障がい福祉課相談支援担当 川崎
会議次第	1 開 会 2 委嘱状の交付 3 あいさつ(谷澤理事) 4 各委員自己紹介 5 委員長・副委員長選出 6 委員長・副委員長あいさつ 7 議事 (1) 計画の概要 (2) 策定スケジュール (3) アンケート調査案について (4) その他 8 閉 会
配布資料	・ 委員会次第 ・ 策定委員会委員名簿 ・ 第三次北本市障害者福祉計画策定委員会設置規程 ・ 事業概要 ・ 第三次北本市障害福祉計画策定スケジュール(案) ・ 第三次北本市障害福祉計画構成(案) ・ 今年実施するアンケート調査の実施概要 ・ アンケート調査票(案)(事業者・団体) 事前配布資料：アンケート調査票(案)(身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者)

会 議 記 録 (2)

発 言 者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	1 開会（ 一略一 ） 配布資料について確認 2 委嘱状交付（ 一略一 ） 3 理事あいさつ 谷澤理事（ 一略一 ） 4 各委員自己紹介（ 一略一 ） 5 委員長・副委員長選出 互選により、会長には加藤潤一委員、副会長には木下大生委員が選出された。 6 委員長・副委員長あいさつ（ 一略一 ） 7 議事 （1）計画の概要
事務局	資料「第三次北本市障害者福祉計画策定スケジュール案」を説明。
	（2）計画策定のスケジュール
事務局	資料「第三次北本市障害者福祉計画策定スケジュール案」を説明。
関根(秀)委員	幹事会とはどのような内容なのか。
事務局	市役所の関係各課の幹部職員で構成する会議である。
加藤委員長	質疑がこれ以上ないようなので、この内容、スケジュールで進めていただく。（異議なし） （3）アンケート調査票について
事務局	資料「今年度実施するアンケート調査の実施概要」を説明。

会 議 記 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
関根(孝)委員	対象者数について、手帳所持者がどれくらいで、サンプルがどれくらいかを教えてほしい。また、5、6年前に計画の見直しをやっているが、そのときの調査のサンプル数、有効回収数を教えてほしい。
事務局	身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者の手帳所持者の約50％が対象となっている。本年4月時点で身体障がい者が2,000人強、知的障がい者・精神障がい者がそれぞれ400人強。また、前回の回収率は、身体障がい者74％、知的障がい者70％、精神障がい者68％。全体では72.5％の回答があった。前回の対象者数は身体障がい者が1,000人、知的障がい者300人、精神障がい者200人。
関根(孝)委員	身体障がい者は手帳所持者の半分の1,000人が対象ということだが、対象者はどのような基準で選ばれるのか。
事務局	2,000人の中から無作為に抽出したいと考えている。例えば、名簿で、1つ飛ばしで抽出するなど。
関根(秀)委員	身体障がいと言っても、視覚障がいや聴覚障がいなど様々。適当に選んでいくと、肢体不自由で固まる恐れがあるのではないかと。障がい別に半分などと選んだほうがよいのではないかと。そのほうが障がい別の要望が反映されやすいかと思う。
事務局	参考にさせていただく。
甲斐田委員	精神障がい者のアンケートの内容について。発症してから（医者から精神障がいと診断されてから）の年数を聞きたい。時間の経過とともに病状がどうなっているか。その都度によって、福祉サービスのニーズも変わってくると思うので。 もう1点は、このアンケートを本人が記入する場合と、同居家族が記入する場合があると思うが、精神障がい者の場合は、支える家族がキーポイントになるので、アンケートの最後に家族が介護する側として何を困っているか、どういったサービスが必要かを聞く項目を加えることができればよい。
事務局	加える方向で検討する。
長谷川委員	知的障がい者も、やはり本人からの意見は出しづらいので、家族が答える部分を加える必要があると思う。

会 議 記 録 (4)

発 言 者	発 言 内 容
事務局	家族の意見を最後に行ける場所を加えるように検討する。
木下副委員長	障害者総合支援法の対象には難病が入っている。無視してしまうのはどうか。
事務局	対象者を絞るのが難しいところもあるが、団体には話を聞いてみたいと考えている。
関根(秀)委員	知的障がい者の調査票のみ振り仮名があるが、身体障がい者、精神障がい者の調査票にも入れて欲しい。 もう1点は、これでは視覚障がい者が対応できない。点字の調査票の用意はあるのか。
事務局	振り仮名については対応する。点字版は作っておらず前回の調査でも作っていないが、考えてみたい。
関根(秀)委員	視覚障がい者の中でたまたま選ばれた人の中には、点字版を必要とする人や、大きな文字の拡大版を必要とする人などいるかもしれない。
事務局	考慮したい。
関根(孝)委員	視覚障がい者については、どのくらい抽出されるかということもあるが、点字で直接出すか、あるいは相手にメッセージを伝えて、場合によっては職員が出向いて直接聞き取るとか、拡大版を用意するとか、個別に連絡がとれるように(相手の意向を把握できるように)したい。手法については検討し、何らかの対応をしたい。
加藤委員長	障がい特性に応じた対応をしていただける、ということかと思う。
加藤委員長	調査対象に「児童」という概念を加える必要があるのではないか。また、知的障がい者のアンケート内容が難しすぎるのではないか。当事者に回答していただくことを考えると、もう少しわかりやすい物が必要かと思う。
事務局	検討する。
関根(秀)委員	アンケートの内容で、「記入にあたってのお願い」には「6月1日現在」とあるが、中では「□月□日」となっている。整合をとるように。

会 議 記 録 (5)

発 言 者	発 言 内 容
事務局	統一する。
加藤委員長	委員からの意見を考慮のうえ修正等を加え、アンケート実施させていただく。(承認)
岩崎委員	(4) その他 事務局から「現行の計画」と「法律の改正・施行」を踏まえて、今後の計画の方向性について示されたが、特徴などがよくわからない。例えば、高齢者については在宅支援の方向性が打ち出されている。確かに、差別解消、権利擁護が中心になると書いてあるが、背景がよくわからない。 まず1点目は、法律の概要版みたいなものがあれば示してほしい。 また2点目は、新しい計画の柱立てについては、委託業者にも説明してほしい。 3点目は、「計画の達成状況の点検及び評価」とあるが、現状分析は進んでいるのか。また、資料として配布する予定はあるのか。
事務局	各法律の概要については、後日各委員に送付したい。
委託業者	現行計画の構成も新しい計画の構成案も基本的には変わらない。ライフステージの長い障がいのある方々に対する支援を様々な面で整理するようになっている。ただし、障害者差別解消法の施行なども考えると、権利擁護や差別の解消といったあたりをまずきちんと述べておく・整理をしておく必要があるのではないか、ということで第2部各論の最初に配置してある。
事務局	計画の達成状況の点検及び評価については、現在、第二次計画の点検・評価を進めているところ。
長島委員	第二次の見直しということで、障害者福祉団体としては、請願、要望書を出しているが、それがどうなっているか知りたい。
加藤委員長	障害者福祉計画がどのようなものか、何かひとつわかりやすいものが必要だと思う。障害者福祉施策がいまどのような方向を向いて組み立てられてきているのか、経緯も含めて知りたい。

会 議 記 録 (6)

発 言 者	発 言 内 容
岩崎委員	とくに体系的なところで、資料の「新しい計画」は案ということで、これで確定ということではないと考えてよいか。
事務局	基本的にはこの方向性で、早めに構成を固めたいと考えている。
関根(孝)委員	手元にスケジュール案があるが、要望のあった法律の概要やこの計画を策定するそもそもの背景などは追加資料としてお送りさせていただき、8月の第2回委員会のときに、ある程度のこの柱について、もう少し掘り下げて議論をしていただくようなスケジュールになっている。今日はまず、最初に計画の骨子的なものを出させていただいたので、この議論の方向性をご了承いただければ、8月の段階ではもう少し踏み込んだところでの議論をお願いしたい。
事務局	第2回の委員会は、8月の中旬から下旬を予定している。
加藤委員長	今回は、資料の配布がぎりぎりだったが、できれば1か月くらい余裕をもっていたきたい。
	8 閉会
議事のとん末・概要を記載し、その相違なきを証するためここに署名する。 2016 年 10 月 14 日 委員長(委員長) 加 藤 明 一	